

“大切なもの、それは・・・”

公益社団法人 熊本県精神科協会 理事 寺岡和廣

今回私に執筆依頼があり、何を書いたら良いのかと悩んでいましたが、とりあえず最近気になる事について自分の思いを書かせていただきたいと思います。

まずは、高校野球についてです。皆様ご存知のように全国高校野球選手権大会は今年第97回でしたが、前身となる全国中等学校優勝野球大会の草創から考えるとちょうど100年になります。小さい頃から野球が大好きな私にとって“甲子園球場”は本当に憧れの場所です。雪のせいで冬は殆ど練習が出来ないなど、昔は地域間でかなりの差がありました。そのような状況の中で、青森県の三沢高校は太田幸司をエースとして1968年夏、69年春、それから夏と連続出場しました。特に1969年夏は、東北勢としては戦後初の決勝進出を果たしています。その決勝戦も松山商業相手に1日では勝負がつかず再試合が行われ、太田投手は2日間投げ続けました。地方大会を勝ち抜き、代表として甲子園球場で精一杯試合に臨む、なんて素晴らしい事でしょう。しかし最近の高校野球で気になる事があります。代表になるためには実力がある選手を集める事は必要なのですが、関西出身なのに北海道や九州の高校に進んでいる選手がととても多いようです。もちろん学校数が少ない地方の方が甲子園に出場するチャンスが高いのはわかります。でも地元出身で小・中と一生懸命に練習して、あこがれの甲子園を目指して入学した高校でベンチに入る事すら出来ない数多くの部員がいると言う現実。それって本当に良いのでしょうか？

次に、今年には終戦から70年になります。戦争によって300万人以上の日本人が犠牲になったと聞きます。高校野球も1942年から45年まで戦争のため開催されていません。甲子園を目指していた青年達も戦争で大勢が亡くなったのだと思います。

戦争の悲惨さを体験した人達が年々減っていく事実は、当然ですが免れません。今後時間が経つに連れて、戦争で犠牲になった人達に対する思いは薄れていくのでしょうか。それは絶対に避けなければなりません。特に広島、長崎に投下された原子爆弾の被害、影響に関しては、決して風化してはいけないことです。そのような中で、「安全保障関連法案」が可決されました。私は詳しい事はわかりませんが、“日本が直接攻撃を受けなくても、日本と密接な関係にある同盟国などが攻撃された場合、集団的自衛権を行使して武力が使えるようになる”と言う事であり、他国との協力を促すための手段ととらえるのが妥当だと言われている。でも本当に日本が再び戦争をすることはないのでしょくか？

最後に、日本航空123便が墜落してから30年が経ちます。1985年8月12日、東京発大阪行きの飛行機が高天原山の尾根（通称「御巣鷹の尾根」）に墜落した事故です。乗員乗客524名のうち死亡者数520名。これは日本国内で発生した航空機事故では最多です。墜落するまでの短い時間に複数の人達が遺書を残しています。亡くなる事の悔しさや家族への感謝の言葉など、改めてその遺書を読むと本当に心が痛みます。原因はその前に起こした事故の修理が不適切だったなど色々と言われていますが、二度と同じような事故が起きないようにしなければなりません。それには小さな異常を見逃さない様にするのはもちろんですが、戦争と同様、年月が経っても犠牲者の方々に対する思いを決して忘れない事が重要です。

人それぞれ、心に残っている事件や事故、また楽しい出来事もあるでしょう。それから感じる大切なもの、それは・・・。皆さん、一度ゆっくりと考えてみてください。